

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【慈恩寺中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	スタディサプリ等を活用して基礎・基本的な知識・技能の定着を図る活動に力を入れる。また、授業において基礎・基本的な知識・技能を定着する活動の充実を各教科で図っていく。
思考・判断・表現	思考力、判断力、表現力を高める協働学習を教科担当が教科会で検討しながら、工夫して実施していくとともに、生徒の思考力・判断力・表現力を身に付けるための活動の実施や、自らの考えを表現するために練習する機会を設定を検討していく。
主体的に学習に取り組む態度	先を見据えた学習計画や目標を立て、その達成のために生徒一人ひとりが具体的方策を立てられる指導を全校をあげて行っていく。また、資料の提示やICT機器を活用した授業実践を行い、生徒一人ひとりの興味・関心を高め学ぶ意欲を高めていく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査及び令和5年度さいたま市学習状況調査において、前回実施時よりも各教科の「知識・技能」のポイント3ptを向上させる。	⇒ 授業においては単元ごとの小テストや前時の復習に取り組む。またスタディサプリ等を活用した家庭学習を促し、知識・技能の定着を図る。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査及び令和5年度さいたま市学習状況調査において、前回実施時よりも各教科の「思考・判断・表現」のポイントを3pt向上させる。	⇒ 各教科でミライシードのオクリンクやムーブノート等を活用することで、話し合い活動をさらに充実させ、思考・判断・表現力を高める。
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査において、前回実施時よりも「家庭学習をしていますか」の質問項目における肯定的な回答の割合を向上させる。	⇒ 各教科で生徒が達成感を味わえるように、資料の提示やICTを活用した授業実践を行う。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	各教科において、スタディサプリを活用して基礎・基本的な知識・技能の定着を図る活動に力を入れることができたことが学校評価から明らかになっている。また、各教科の数値について、前回の結果よりも向上させることができた。しかし、目標であった3ポイント向上の達成はできなかったため、基礎・基本的な知識・技能を定着する活動の充実課題が残ったと考えられる。	B
思考・判断・表現	ICT機器を効果的に活用し、思考力、判断力、表現力を高める協働学習を教科担当が教科会で検討しながら、工夫して実施していくことができたことが学校評価から明らかになっている。また、各教科の数値について、前回の結果よりも向上させることができた。しかし目標であった3ポイント向上は達成できなかったため、生徒の実態に即した活動の見直しが必要であると考えられる。	B
主体的に学習に取り組む態度	さいたま市学習状況調査における質問項目「家で計画的に勉強していますか」について、肯定的な回答の割合を増やすことができた。今後は学習事項を定着させる必要がある。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	各教科における「知識・技能」を問う問題に対する無回答率が高かった。現在、スタディサプリの家庭での活用が定着しつつあるため、家庭学習の習慣化をさらに進め基礎学力の定着を図る。また、ICT機器を効果的に活用した授業実践を校内で研究しており、次のさいたま市学習状況調査の結果を踏まえて、さらなる工夫・改善につとめていく。
思考・判断・表現	今回のテストで無回答率が高かった問題の傾向として、「根拠を用いて考えることができるか、説明することができるか」であった。まずは教科の授業においてICT機器等を活用しながら、興味関心を引き立てる導入、生徒が論理的に考えることができる展開、学んだことを自分の力で相手に伝えるように表現する終末という授業展開を図っていく。
主体的に学習に取り組む態度	家庭学習の状況については、全国と比較して未だ差があることが現状である。今年度はさらにスタディサプリ等を活用し家庭学習の習慣化を図っており、ほとんどの生徒が期日内に取り組むようになり、学習に向かう姿勢が変わった。また、自主的にスタディサプリを活用して復習をする生徒も増加してきた。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	昨年度結果よりも、「知識・技能」、「思考・判断・表現」どちらも数値を向上させることができたが、「知識・技能」の基礎的な内容を問う問題で、無解答率の高い項目がある。今後さらにスタディサプリ等を活用した家庭学習の習慣化を進め、基礎学力の定着を図る。
中2	昨年度結果よりも、「知識・技能」、「思考・判断・表現」どちらも数値を向上させることができ、特に数学では昨年度よりも「知識・技能」において大きく数値を向上させることができた。しかし無解答率についても高かった。今後さらにスタディサプリ等を活用した家庭学習の習慣化を進め、基礎学力の定着を図る。
中3	質問項目「家で自分で計画を立てて勉強していますか」について、肯定的な回答の割合は75%であった。また「学校の授業時間以外に、普段1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、他学年より肯定的な意見の割合が高い結果であり、主体的に学習に取り組む様子が見られるようになった。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【慈恩寺中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>【学習上の課題】 令和5年度実施のさいたま市学習状況調査の結果から、知識・技能に関わる問題の正答率が低い箇所がある。</p> <p>【指導上の課題】 基礎・基本的な知識・技能を定着する活動の充実に課題が残った。</p>	<p>⇒ 授業において単元ごと的小テストや前時の復習に取り組む。【毎回実施】</p> <p>⇒ 単元計画を示す。また授業内目標の提示を行う。【毎回実施】</p> <p>⇒ 授業後にスタディサブリを活用した復習を促す。【運用率80%以上を達成する。】</p>
思考・判断・表現	<p>【学習上の課題】 自分の考えを論理的に表現することが困難な場面が見られる。互いの意見のよさを生かして解決方法を見出す力が弱い。</p> <p>【指導上の課題】 自分の考えを論理的に表現したり、異なる意見と折り合いをつけて解決する方法を探したりする機会が少ない。</p>	<p>⇒ 生徒が自らの考えを表現する機会を学級討議の時間を活用し、キャリアアップ能力を育成する。【月1回以上】</p> <p>⇒ 自分の意見を表現するための「枠組み」を作り、段階的に練習をする。【令和6年度さいたま市学習状況調査「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていく」という項目において、肯定的な回答の割合を前回結果よりも向上させる。】</p>

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		<p>①結果分析(管理職・学年主任等)</p> <p>②詳細分析(学年・教科担当)</p> <p>③分析共有(児童生徒の実態把握)</p> <p>職員会議・校内研修等</p>
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	<p>国語・数学ともに全体的に無回答の割合が減った。しかし、国語の「文脈に即した漢字を書く問題」や、数学の「文字を用いた式で表す問題」のように依然として無回答率が高い箇所もあることが現状である。</p> <p>現在、基礎学力の定着のためにスタディサブリ等を活用した学習や、授業での小テストや復習に取り組む活動を行っている。これらの取組をさらに進め数値の向上を図る。</p>	
思考・判断・表現	<p>国語・数学ともに、「自分の考えを書く」「根拠を用いて説明する」という問題の無回答率が高い。昨年度の全国学力・学習状況調査においても、同内容における無回答率が高いことから学校全体の課題である。</p> <p>現在、「自分の意見を表現するための練習」を校内で研究しており、次のさいたま市学習状況調査の結果を踏まえて、更なる工夫・改善につとめていく。</p>	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	各教科において単元計画や、授業内目標の提示を行った。またスタディサブリを活用した復習を促した。現在アクティブ率は86%であるため、さらに向上できるよう努める。	変更なし
思考・判断・表現	B	各学年で月に1回以上、学級会を実施することができた。また、学級会の中で自分の意見とその理由を考え、ワークシートに記入する時間を設けることができた。それを受けて、クラス全員が納得解に導く取組を行っている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)